

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3194 号	氏名	小野 盛夫
論文審査担当者	主査 新家 俊郎 教授 副査 坂下 暁子 教授 副査 奥山 浩 教授		
<p><b>論文題名</b> : Clinical outcomes of left atrial circumferential ablation and box ablation for paroxysmal atrial fibrillation (発作性心房細動に対する拡大肺静脈隔離および BOX 隔離の臨床転帰)</p> <p><b>掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)</b> : THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES、Vol. 34, No. 3, 2022 年掲載予定</p> <p>発作性心房細動(PAF)に対する拡大肺静脈隔離術アブレーション(LACa)とLACaに後壁隔離アブレーションを追加する(BOXa)の比較試験は少なく,これらの臨床転帰を比較することを目的とし,小野らは本研究を行った.</p> <p>小野らはアブレーション予定の PAF の患者を LACa 群または BOXa 群にランダムに割り当て,6 か月間フォローアップした. 主要評価項目は 6 か月時点での AF 再発率と左心房駆出率(LAEF), 及び LAEF の変化とした. LAEF は核磁気共鳴画像法(MRI)によって測定し, 副次的評価項目は, 24 時間心電図での上室性期外収縮総数 (SPBs) と SPB の short run (SVRs) とした. 小野らの研究結果では患者背景と 6 か月での AF 再発率, および 3 ヶ月と 6 ヶ月の LAEF 及びその変化に関して両グループに有意差はなかった. ただし, 6 か月での SPBs と SVRs は BOXa グループの方が LACa グループよりも有意に多かった. 以上より小野らは BOXa が PAF 患者の治療に利点を示さなかったことを明らかにした. 本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した.</p>			

(主査が記載)

論文審査の結果の要旨 記載上の注意点 更新：2020.11.30

1. 申請者または、主指導教員が案を作成し、主査が加筆の上、500字以内で作成してください。
  2. 主査が記載する書類の為、主語に注意してください。  
(例)「我々は」→「(申請者が昭和太郎の場合)昭和らは」
  3. 「背景・目的」「方法」「結果」「考察」といった、内容を分ける書き方はしないでください。
  4. 報告番号の「甲・乙」欄は、課程博士(大学院生)は「甲」、論文博士は「乙」にして提出してください。
  5. 主査・副査欄は氏名、役職を記載し、講座名を記載しないでください。
  6. 申請論文が、審査基準を満たしている場合は「本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。」と文末に記載してください。
  7. 論文題名が英文の場合は日本語訳の題名を( )内に記載してください。
  8. 掲載雑誌名は略称を記載せず、正式名称を記載してください。
  9. 掲載雑誌がオンラインジャーナルで頁が記載できない場合は、論文番号等を記載してください。
- ※このテキストボックスと本文内の「・」「○○」は削除して利用してください。